

上田市教育委員会 12月定例会会議録

1 日 時

平成 20 年 12 月 17 日 (水)

午後 2 時 30 分から 4 時 52 分まで

2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

3 出席者

委員

委員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	生田千鶴子
委 員	春原 秀一
教 育 長	森 大和

説明員

小菅教育次長、北沢教育参事、保科教育総務課長、小野塚学校教育課長、原澤生涯学習課長、礪山人権同和教育政策幹、滝沢文化振興課課長補佐、古平体育課長、清水丸子地域教育事務所長、竹内社会教育課長、荒井真田地域教育事務所長、児玉武石地域教育事務所長、手塚第一学校給食センター所長、市川第二学校給食センター所長補佐、金井丸子学校給食センター所長、浅野中央公民館長、渋沢西部公民館長、古川城南公民館長、細川塩田公民館長、坪田上田図書館長、大滝上田情報ライブラリー館長、掛川市民会館長、寺島博物館長、増田上野が丘公民館長、佐藤川西公民館長、藤塚丸子公民館長、芳沢真田公民館長

<協議事項>

1 浦里小学校におけるコミュニティ・スクールの活用について

資料 1 により小野塚学校教育課長説明

生田委員

この件について、聞いた話では浦野地域の住民には自治会長から説明があったが、越戸地域の住民には説明がないまま話が進んでおり住民が立腹しているとのことである。また、コミュニティ・スクールになると学校は存続だと8割以上の方が思っているとの話も伺った。地域の方々の認識と実際の形態に大きなズレがある。コミュニティ・スクールは地域の力がないと成功へ向けては進んで行かない。コミュニティ・スクールは、学校の特色を生かし地域との連携も深まってとても良い制度だと思うが、この制度がどういうものを地域の方に認識してもらって進めないという問題である。

小野塚学校教育課長

ただ今の話がいつ時点のことかわからないが、10月に自治会長名でこの制度の推進について要望書が出された時点では住民の総意と認識している。自治会長さん方との話は存続問題・統廃合問題とは切り離して、現時点での浦里小学校をどのような学校にしたいのかを考える中でコミュニティ・スクールという案がでてきたということである。指定を受ければ存続だと思われる向きがあるとすれば話をして確認をしておかないといけない。いずれにしてもこの学校をどうしていきたいのか、どういう活動をしていけるかを考えた中で手法であり、今回指定したとしても今後児童数等の状況により取り消しということも考えられる。

生田委員

コミュニティ・スクールの指定が学校存続とは別の話ということを知らないという人がいることは事実であり、住民がしっかり認識した上で進んでいかないと、後々大きな問題になる恐れがある。

小野塚学校教育課長

地元の方にコミュニティ・スクールとはどういうものを理解してもらうためにも、すぐに指定ではなく調査研究事業として行いたい。

生田委員

調査研究事業に参加した場合2年でなくてもいいのか。

小野塚学校教育課長

1年でとり止める事も可能だが、県教育委員会から理由を尋ねられた際、なぜ取り止めるか理由がないと難しいと思われる。

生田委員

調査研究事業と本指定の実質的な違いは何か。

小野塚学校教育課長

活動としてはほとんど同じである。本指定になると教員人事について県教委に意見が言えるということが一番の違いである。

春原委員

コミュニティ・スクール指定に向けて活動することに賛成である。学校を拠点として保護者や地域の人たちが共に生きていくということを理解してもらうことが大事である。そういう意味で調査研究事業の中身は重要である。資料の2の中で“コミュニティ・スクールの導入”とは何を指しているのか。市教委は、“調査研究事業の導入”、学校や地域は、“コミュニティ・スクールの導入”という表現になっている。意識の違いはないか。学校や地域の皆さんは調査研究事業についてどう考えているのか教えてほしい。

小野塚学校教育課長

地域の方はコミュニティ・スクールの指定を要望しているので最終的には指定してほしいという気持ち強い。指定をするにあたっては調査研究事業という制度があり、指定とほぼ同様な事業ができることを話してあるので理解されていると思う。まずはこの制度、システムを活用して学校教育活動に広がりを持たせたい。

金子委員

確認の意味で何点かお聞きしたい。

コミュニティ・スクールの定義を確認する必要がある。小規模特認校を検討していたのにコミュニティ・スクールになった。その経緯を訊きたい。

“存続問題とは別に”とわざわざ明記されている意図は何か。また、それと指定に向けて動き出す関係を訊きたい。

コミュニティ・スクールの研究目的は4つあるが浦里小学校の場合のメインは「地域の人材の効果的な活用について」と思われる。学校の教育目標は「自分のよさを切り拓く子ども」である。その整合性、繋がりについて教えて欲しい。

小野塚学校教育課長

以前存続という話が出た際に児童数を確保しなければならないということで小規模特認校やコミュニティ・スクールのような色々な手法が検討された。このところ存続問題の議論が落ち着いてきているので、児童を集めるというよりも地域で学校を盛り上げて行こうという意識が強まったのではないかと考えている。現在は、地域からもコミュニティ・スクールの指定に絞った要望書となっている。

“存続問題とは別に”という部分はあえて書いたものである。指定イコール存続ではないと教育委員会の意思を表したものである。

現時点の学校目標はあくまでも「自分のよさを切り拓く子ども」である。どのような活動をしてこういう子ども達を育てていきたいかということであるが、地域を知りながら、地域を題材にしながら地域の人と連携してこのような子どもを育てていきたいというものでコミュニティ・スクールを導入したからといって学校目標が大きく変わるものではないが学校目標実現の手段のひとつとしてコミュニティ・スクールを活用することはできる。

金子委員

教育目標は「自分のよさを切り拓く」だけではなく、例えば「他者を認め、自己を切り拓く」などのようにしておいた方が地域の人材を入れる、いろいろな試みをする等の目標の設定として分かり易くなるのではないか。

森教育長

存続問題については、学校を介さずに教育委員会と地域で話してきた。コミュニティ・スクールの話は学校と地域が一緒になり、学校が中心となって考えてきたという違いがある。コミュニティ・スクールについては4項目の課題例があがっているが、調査研究事業をやっていく中ですべての項目がチェックされるだろうと考えている。

生田委員

先ほど存続に対する関心が冷めてきているという話があったが、地域の話では“コミュニティ・スクールに指定されれば学校が存続する”と8割以上の方が思っているとのことであり疑問である。コミュニティ・スクールは学校の存続と全く別だということを住民に理解してもらい、その上で地元の人が存続を望むなら、コミュニティ・スクールを活用して素敵な素晴らしい学校を作り、さらに小規模特認校制度などを活用して入学者を増やすというような流れで存続が可能といったようなことを説明する必要がある。コミュニティ・スクールに指定されて特色ある学校運営ができても子供達がいなければ学校を閉じなければならない。実績を地域の方々が望んでいるわけではない。地域住民の意向を確認し、その上で実現できる手立てを説明し教育委員

会としてバックアップしていく必要がある。

小野塚学校教育課長

存続問題とリンクして考えるとすればコミュニティ・スクールは切り出せる話ではない。他の小学校でも地域と連携してコミュニティ的な活動を学校運営に入れる事は可能である。浦里小学校では「お助け隊」という形で地域の方々が学校教育活動に力を入れているという実績がある。これをさらに膨らませ地域の中の活動として皆で手掛けて行けるシステムにすることが目的であり、存続問題とリンクさせたらうまくいかない。

春原委員

学校がコミュニティ・スクールの指定を受ける目的がきちんとしていると、色々な研究課題や反省等が出てくる。調査研究事業を引き受ける際に目的がきちんとしてきているように教育委員会は支援する必要がある。支援という点で、今後調査研究事業又は本指定に向け教育委員会として予算面や人的支援についてどのように考えているか。

小野塚学校教育課長

調査研究事業では多少国からも予算的な援助がある。研究段階で人的支援が必要となれば何か考えなければいけないが当面は現状の中で行なう予定である。

金子委員

学校運営協議会制度は、受身的な姿勢から積極的に地域の人や保護者が関わるという意味で画期的な試みであるので是非進めてほしい。実際問題として浦里小学校ではかなりの部分が実施されているが、制度をご存知ない方もいらっしゃるようで、そこを改善するためにも文科省の調査研究事業を取り入れることで良い方向へ進めると思う。

西田委員長

今までの中で学校と教育委員会が話し合う機会はあったか。保護者とは話し合いができたと思う。地域の皆さんとは申し入れのあった自治会長さん方の集まりと話し合いをしてきたという理解でよいか。

小野塚学校教育課長

自治会長でない方もいたがそうである。

西田委員長

学校の存続に関する歴史的な経過を踏まえ、新しく出てきたコミュニティ・スクールについて、ある段階で住民・学校・PTA にきちんと説明することが必要と考える。説明が一部分だけであるとか断片的であると後から誤解を生じて存続との関係等いろいろなことが意見として出てくると思われる。教育委員会として正式に住民の皆さんに説明する場は今までなかったと思うが、本質的な問題をどのように承知してもらった上でどう進めていくか工夫が必要である。何か具体的な方策はあるか。

小野塚学校教育課長

今の段階では地域住民といっても全戸を集めてのものではない。代表が集まっている“こまゆみ会”で話していけばほとんどの方に伝わるだろうと考えていた。

西田委員長

浦里小ばかりではなく他の学校でも手を上げる可能性もあるのでコミュニティ・スクール等の選択肢があるというPRが必要かもしれない。前へ進めて行くことでいいか。

全委員 了承

2 平成 21 年度全国学力・学習状況調査への参加について

資料 2 により小野塚学校教育課長説明

西田委員長

公開の仕方とかどう利用するか等について新聞やテレビ等で議論されているが、文科省の企画に上田市教育委員会も賛同し、実施するかどうか前提があるようだが意見をお出しいただきたい。

春原委員

来年度も参加すべきである。公表については昨年度、本年度のように序列化や過度の競争にならないような配慮が必要である。調査を通して各学校の中で児童生徒への教育指導や学習状況の改善等にどの程度役立っているか検証する必要がある。10月14日の校長会に出された“全国学力・学習状況調査を受けて”を拝見すると学校によって温度差があるようだ。学校独自の公表の仕方、改善に向けて具体的にどのように動いているか等についてこの調査が活きるような形を続けてほしい。1年目2年目を受けてさらに改善していく点はどんな所か考えていきたい。

金子委員

調査に参加するかどうかについては実態を把握する上で意味があると考えている。分析は学校によってレベル差があり、知識面の点をあげたいという対策のみの所もあり気になっている。学力観がグローバルなもの（世界標準）に変わり、受身的に読んで理解すればよいだけでなく、自分で考え、実証的に自分の考えを述べるというところまでを問う問題となっており、学校でもこの新しい学力観をよく理解して指導しないと、応用力問題の点は上がらない。実態を把握するという意味で参加する事に意義があると思っているが、その後の評価（結果分析）を、改善に繋がる質の高いものにしていかないと意味がなくなる可能性がある。現場でしっかりやってほしい。

生田委員

今年度の調査について共通の認識を持ちたい。4月22日に調査を実施して、いつ頃市教委に結果が来て、いつ頃学校へ結果が行って、学校ではいつ頃結果分析をしたのか教えてほしい。

小野塚学校教育課長

資料が手元がないので記憶の範囲であるが、8月下旬に結果が一斉に届き、10月初め頃に教育課程検討委員会を開いているので、その間学校の中で分析をし、検討委員会の後さらに検討をしているという状況である。

生田委員

10月上旬には各学校で今後の方向性を見極めているというふうに理解してよいか。

小野塚学校教育課長

そうである。

生田委員

先生方は兎角忙しいという話を聞いている。10月上旬に分析結果が出て対策が具体的に動き出すのは10月から11月。動き出してすぐに冬休み、卒業式等ばたばたしているとすぐに4月になりまた次の調査が始まる。分析結果を充分生かし切らないうちにまた次が始まってしまう。先生方もこれに翻弄される。学力調査は先生方の教え方を見極めるには大きな効果を顕すが、本当に子供達の学力が上がるか、先生方のやりたいことが出来るか疑問に思う。昨年、本年と実施しているので検証を充分すべきである。文科省がいうので毎年行なうということは見直してもいいのではないかと。充分分析をし、どのような効果がでたかを検証した上で実施してもいいのではないかと。毎年やっていくことが効果的なのか疑問である。

西田委員長

補足であるが、11月13日付けの教育委員会から出ているスケジュールの中では実施日が4月22日、文科省の結果公表が8月28日、指導主事の検討開始は9月1日から6回。校長会の検討が10月14日となっている。来年の日程等についてお話をいただきたい。

小野塚学校教育課長

この調査は国の政策として再開したものであり、教育政策に結び付けるという大きな意図を持っている。子供達の学習状況、理解度等を見て今の学習指導要領がいいのか等教育政策に生かす目的で行なわれている。現場の先生方にとってみれば子どもたちの学習状況や理解度を掴み今後の指導に生かすということも大きな目的である。国レベルであれば毎年でなくても傾向が分かればよいと思うが、学校現場にとってみれば一人の子がやるのは小6と中3の2回である。子どもたちの理解度が分かる、指導の改善にも繋がるという意味で参加には意味があると考えている。振り返り、改善の時期は遅くなれば遅くなるほどタイムスケジュールは厳しくなる。対象者が小6と中3であるので遅ければ卒業してしまうということになるのでなるべく早い結果通知を期待している。

森教育長

このテストでは子供達にどういう効果があるかではなく、どういう教育を受けてきたかを見るしかない。したがってどう生かすかは全校で組織されている教育課程の委員会で何かなされるかが重要である。各学校の3、4、5年生がどう学習されて6年に至っているかという意識を先生方に持ってもらうことが重要である。昨年の学校分析では学校により大きな差があった。今年は昨年の検討会の上になんて行なっている。継続性がすごく大事である。ただ実態を見るだけでは意味がない。下の学年にどう活かすかに意味がある。引き続いて行なう方が分析等を含めて学校でも定着すると思う。

春原委員

本年度の報告書の中に、担任が今までこのように子供達と向かい合って授業をし、こうやってきて、このような成果を生んだという内容があった。これは非常に大事な提言だと思う。今までの授業がどうだったのか、どういう結果になっているかを学級の問題ではなく学校の問題として捉え、学校職員全体で授業改善が日々の授業で行われているというような受け止め方、対応の仕方、課題の把握の仕方が重要である。そしてこのことが子供達の力をつけていくことになる。点数の高低ではなく指導のあり方、授業改善のあり方に向かうような受け止め方にしていくことが大切である。

金子委員

昨年の 1 回目は文科省からの結果が遅かったが、本年の 2 回目はかなり早く届いたため、各学校の分析結果が文字化して校長会に提出されたのは素晴らしい進歩である。

ただし、分析の内容、方法において、すべての学校が素晴らしいとは、残念ながら言えない。読ませていただいて気づいたことは、子供達の調査結果が良い所は分析も良くできているということだ。

市の教育委員会として、調査結果や評価方法に問題のある学校にはきちんと指導する必要がある。分析が型通りで抽象的な所は、他にも問題を抱えているなどして授業に力が向いていないのかもしれないので指導主事から個別に指導を入れてもらいたい。

西田委員長

感想であるが、成績のよい上位者の伸び悩み傾向がはっきり出ている。また学校間の格差がある。松本市と上田市の分析の仕方に差があった。テストを受ける制度と国の教育行政でデータとして把握して行かなければならないという二面性があるので、教育長の話のように長い目で見てどういう教育をしてきたかを見るためには持続的に行なうべきである。個々の子供達への指導をどうするか。個々の学校の特色をどう把握して改善していくかはきめ細かな指導と考察が必要である。この辺を生かしていくために実際どうやっていくかが問題である。マニュアルはないので生かしていく方法を真摯に話し合った上で工夫していかなければならない。その辺についていかがか。

北沢教育参事

上田市の場合には、教育課程の立案等は、各学校の校長先生の考えを尊重しており統一的な形では出していない。今回の学力テストの教育委員会資料については、もう少し積極性を持たないと各校の思いに差がでていていると感じている。各校の分析については、深さや取り組み等の具体性について、ばらつきがあるのは事実である。教育課程検討委員会に出されたものを読み合い、学び合って学校の授業に取り入れるべきであるが日々の授業に追われやや薄くなっていると感じている。それらについて 1 月に教育課程検討委員会があるので更に話し合い、校長会等でも再度確認し合い全体のレベルアップを図りたい。

全委員 実施する事です承

- 3 史跡上田城跡整備実施計画検討委員会設置要綱の制定について
資料 3 により滝沢文化振興課課長補佐説明

西田委員長

第 2 条第 2 号により教育委員会から諮問し、それに対して調査・審議をした上で教育委員会に答申を出すというふうに理解してよいか。

滝沢文化振興課課長補佐

そうである。

金子委員

今までの経緯を教えてください。

滝沢文化振興課課長補佐

平成 2 年度に策定した史跡上田城跡整備基本計画の中で中期的に取り組むもの、長期的に取り組むものと段階的に計画してきた。この計画に基づき、具体的に何をするかを実施計画に盛り込んでいきたいというものである。平成 2 年度の計画であるが短期では本丸の堀の浚渫、本丸内の民家の移転、本丸東虎口櫓門の復元が 3 年度、4 年度、5 年度に実施済みである。中期では市民会館、山本鼎記念館の移転が出てくるがこれはまだ未実施である。二の丸の東虎口、武者溜り等の復元整備は市民会館の移転と関連するものであるため未実施である。長期の目標は体育施設移転、二の丸の西虎口整備等が上がっている。中期目標の市民会館の移転については具体的な課題として上がってくるという想定のもとで実施計画を作っていく。

金子委員

よく分った。

西田委員長

進めていただくという事でいいか。

全委員 了承

< 報告事項 >

1 旧一中跡地の利用計画について

資料 4 により保科教育総務課長説明

西田委員長

教育委員会の立場で言えることか分からないが、可能であれば合同庁舎側の歩道の

幅を広げてほしい。もう一つは中央公民館前の 2 つの信号のタイミングが悪く大変不便であるので何とか改良してほしい。建物の格式にも影響する。

保科教育総務課長

現在政策企画局、健康福祉部、都市建設部、教育委員会、子ども未来部、商工観光部などオール上田市で検討している。縦の南北の道、東西の道はこの機会にきちんと整備したいというのは共通認識である。保健センターの出入り口については交差点協議ということで警察署と協議が必要であるが、中心市街地の一角としての機能、市民の憩いの場、周辺の駐車場機能確保等諸課題について知恵を出し合いながらやっていきたい。

金子委員

現在の図書館駐車場はそのまま残すのか。

保科教育総務課長

中央公民館、文化センター、図書館等の総合駐車場として利用しているので基本的に残す。そこが満杯となった時のカバーは新施設で対応することとしたい。具体的な利用方法については総合保健センターと調整しながら使用していく。各施設の最大使用台数を確保することは難しいので民間駐車場を利用してもらう事もあり得る。

2 小中学校営繕工事の進捗状況について

資料 5 により保科教育総務課長説明

西田委員長

昨年度比 5,400 万円増とはどの予算の部分か。

保科教育総務課長

11 月 28 日時点の契約済額が 2 億 2,400 万円となっているが、昨年度の同時期この部分は 1 億 7,000 万円であったということである。

西田委員長

参考までに 3 億 3,300 万円の前年度の数値はどのくらいか。

保科教育総務課長

これよりは少ない状況であった。

- 3 丸子学校給食センター移転改築整備事業の進捗状況について
資料 6 により金井丸子学校給食センター所長説明

質疑意見 なし

- 4 平成 21 年上田市成人式について
資料 7 により原澤生涯学習課長説明

質疑意見 なし

- 5 上田市青少年問題協議会委員の委嘱について
資料 8 により原澤生涯学習課長説明

質疑意見 なし

- 6 平成 20 年度「家庭の日」の作文審査結果について
資料 9 により原澤生涯学習課長説明

西田委員長

作文の中身はどうであったか。公表されたのか。

原澤生涯学習課長

特に冊子等に纏めるということはしていない。

金子委員

大学生にしたアンケート調査によると、文章を書くことが好きになったという原因の一つに小・中学校の時にコンクール等に応募し誉めてもらったからという意見の一方、先生が勝手に応募しどこが良くて入選したかも分からず、作文は行ったきり返って来ないという不満の意見も多かった。誰が審査し、どんな審査基準で、どこが良かったかフィードバックされないと教育効果がない。活字になって紹介されれば他の人にも参考になるので、配慮してほしい。

原澤生涯学習課長

審査は青少年問題協議会委員のうちの 15 人で小委員会を作って行なっている。審査基準は設けている。今までフィードバックしていないので今後検討したい。

金子委員

その作文はその後、どのように処分されているのか。子どもに戻されるべきである。また、どこがどのように賞に値したかを説明することが将来に繋がる。

原澤生涯学習課長

応募については、先生の推薦により作品を絞って出される場合もあるが、殆どの場合はすべての作品が出されている。内容に対する評価については現時点でどのようにするとは言えないが公表する方向で検討したい。

西田委員長

ある団体で作文コンクールを行なったことがある。学校に応募をお願いしたが子ども達への周知徹底が難しく、何回かお願いして漸く出していただいた。入賞作品は冊子にして応募者に配り、表彰もある大会の席に来ていただいて行なった。作文を書いてもらうことと子供達を書くことに満足感を得てもらうことが狙いである。この事業が生きた存在になるよう努力してほしい。

生田委員

公募は学校でまとめて行なうのか。

原澤生涯学習課長

学校を通じて応募する。

生田委員

学校によって作文に力を入れる学校や物作りに力を入れる学校などいろいろある。これからの子供達に求められるのは、全国学力テストでも要求されているように自分の感じたことを自分の言葉で表現することである。作文を書くということは力をつける良い機会となるので、より多くの学校が応募できるように働きかけをしてほしい。コンクールに出し評価されたら、次の子供達にも生きてくる。自分の思いを文章に表す訓練という意義もあるので広く参加を呼びかけてほしい。

原澤生涯学習課長

学校によっては全ての学年が参加しているところもあるがまちまちである。広く呼びかけてまいりたい。

金子委員

評価にコメントを付けてもらいたい。コメントが、先生の指導の参考になり、子供

達が文章を書く時の助けになる。ただ感覚で選んだということではなく、作文を活字にするならば評価コメントも活字としてのせてほしい。

春原委員

学校現場ではポスターの募集、作文の募集などいろいろな所から応募要請がある。一方では作文に関する教育課程もあり現場は大変である。賞をもらった人が多い所は力があるということではない。このコンクールにしても出せばいい、集めればいいということではなく、現代に合った学校と連携した形に見直したらどうか。本当に必要なのは、幸せな家庭のことではなく影で悩んでいる子供達がどう保護者と一緒に考えていくかではないか。明るい家庭、良い家庭の子供が参加し、そうでない家庭の子供が参加できなくては困る。使い道もどのようにしていくのか、どういう文言で募集していくのか、どう学校が扱ってどう生かしていくのか工夫してほしい。「家庭の日」というテーマに沿うような使い方を考えてほしい。

- 7 平成 20 年度青少年善行表彰について
資料 10 により原澤生涯学習課長説明

西田委員長

これは推薦か。

原澤生涯学習課長

地域の推薦である。

- 8 上田ときめきサミット高校生会議の実施報告について
資料 11 により原澤生涯学習課長説明

金子委員

この会議では、意見の出し方、話し合いの仕方は主催者側から特に指導はしないで高校生の自主性に任せているのか。

原澤生涯学習課長

司会は信州大学繊維学部の学生で、上田市の良さ等を若い人の視点から意見を出してもらおうという会議である。

金子委員

意見の中で具体案を示したり理由を述べたりしているものもあるが、実状を述べる

に止まっているものもある。きちんと理由を押さえ具体的にどうするか等、意見の出
し方の指導があればもっと高校生の発表力が高まる。

- 9 第21回「いのち・愛・人権展」の開催について
資料12により聲山人権同和教育政策幹説明

質疑意見 なし

- 10 真田図書館建設について
資料13により荒井真田地域教育事務所長説明

春原委員

喫煙関係の対応は何か考えているか。また、休憩コーナーの運営やあり方について
はどうか。

荒井真田地域教育事務所長

図書館は禁煙なので、外で吸っていただくか自治センター内の喫煙コーナーを利用
してもらおう。

- 11 「上田図書館まつり」の実績報告について
資料14により坪田上田図書館長説明

質疑意見 なし

- 12 「シリーズ文化講演会」の開催について
資料15により滝沢文化振興課課長補佐説明

質疑意見 なし

- 13 行事共催等申請状況について
資料16-1により原澤生涯学習課長説明
資料16-2により滝沢文化振興課課長補佐説明
資料16-3により古平体育課長説明
資料16-4により小野塚学校教育課長説明

金子委員

学校教育課分の中で TOSS 代表の宮澤さんはどんな人か。

小野塚学校教育課長

確認はしていないが学校の先生だと思う。

14 その他

坪田上田図書館長説明

厚生労働省から旧厚生省や旧労働省の元職員が特定できる図書の閲覧や貸し出しについて配慮してほしいと依頼文があった。上田市の図書館は個人が特定できる名簿類は、個人情報保護の関係で市販されているもの以外置いていない。ただ、全国の電話帳や県内の住宅地図があるので、調べるのは不可能ではない。千葉県的事件で容疑者が“図書館にいた”と話しているとのことであるが、図書館は利用者の秘密を守るという責務があり、お客のプライバシーを守るため誰が来ても干渉せず、マスコミ等にも安易に返答できない。ただし、コピーを依頼する場合は著作権保護や領収書を出す関係で住所・氏名を記入してもらっている。

西田委員長

以上で 12 月の定例会を終了する。